



遊子川公民館

平成22年4月、私が遊子川公民館に着任当初、地域の人口4100人余り・高齢化率48%と、地域全体がいわゆる限界集落に向かつてどんどん進行している状況でした。住民のみなさんも公民館での学習会などから、地域が危機的状況を迎えていることは把握していましたが、「今さら対応しても無駄では」といったような諦めの声や「何をどうしたらいいか分からん」といった、現状に危機意識を持ちながらも、具体的な方策が分からないといった意見

も聞きました。遊子川地域は、愛媛県南予北部に位置し、東は高知県梼原町と四国山地の分水嶺をもつて接しており、自然豊かで美しい山嶺に囲まれた山里です。ただ近年、主要産業であった一次産業の衰退から少子高齢化・過疎化の進行に歯止めがかからない状況となつていきます。遊子川地域のように集落機能の低下から介護、後継者、交通、道路や農林地の維持管理、地域伝統文化の保存伝承などといった問題を抱え悩む地域は、全国に多数存在しており、日本の構造上の問題ともいえます。しかし、全国にはさまざまな地域が独自の取り組みで地域を活性化させています。遊子川地域でも住民全員が前向きに意識を変え、ふるさとに誇りを持ち、安心して暮らしていくため一丸となつて取り組むことのできる地域にしたいという思いで私の公民館での仕事をスタートさせました。

遊子川もりあげ隊では、まず今後5年間に行う具体的な取り組みを示した「遊子川集落づくり計画書」策定に取り掛かりました。計画書を作成するにあたっては、地域内全員を対象としたアンケート調査の実施や計画書作成に係る中間報告会、説明会等を実施し、地域のニーズを明確にしながら取り組むことで、住民全員の願いがこもった

遊子川地域には、全住民が対象会員となる自治組織は存在していませんでした。そこで、限界集落問題に対応し地域活性化を目的とし、全住民が会員となる新たな組織の設立に向けて準備を進めることとしました。新組織の役員の任期は6年間と長期間で設定しました。これは、短い任期での役員交代により、活動の継続性や発展性が損なわれることのないようにとの理由からでした。役員選考には非常に苦労しましたが、熱意を持って説明を繰り返し、なんとか趣旨に賛同していただき役員体制を整えることができました。そして、何度か準備会を経て平成22年8月に「遊子川地域活性化プロジェクトチーム（通称 遊子川もりあげ隊）」という新組織の設立総会にこぎつけることができました。

◆遊子川集落づくり計画書の策定

◆地域活性化組織の設立

特集 ⑦

限界集落問題に立ち向かう公民館活動

遊子川公民館 主事
中井 圭介
(西予市)




地区別懇談会

地域ポスター



トを使った加工品
開発に取り組み、
いろいろな試行錯誤をしながら、このほどトマト酢を完成させ

住民生活に関する支援として、地域公共交通のありかたも検討。住民の意見を反映した上で行政と連携し、平成24年10月からデマンドタクシーの運行をスタートさせました。その他にも高齢者見守り活動や子育て支援、特産加工品開発、遊休農地の利活用、景観維持改善活動、地域防災力向上など、さまざまな分野の取り組みを進めています。

このうち、特産加工品開発では、農家を中心としたグループを設け、地域特産のトマト

◆実践活動

計画書を作りあげることができました。

平成23年度からは、計画書に基づく様々な実践活動を開始しました。

住民全員で進める計画書の実践活動の円滑な推進には、その内容を十分にご理解いただく必要があります、非常に重要な課題でありました。そこで、地区毎(11地区)に懇談会を毎年開催し説明や意見交換を行うほか、会報の発行など啓発活動を積極的に行っています。



特産品テスト販売

ることができました。

また、遊子川小学校児童もトマトを使った料理を考案。日本製粉主催の小学生ご当地アイデア料理コンテストに応募したところ、全国244作品の中からユニセフ賞に選ばれるなど、地域あげでの取り組みとなつていきます。

今後、これらの加工品を商品化し販売開始に向けて、熱心に研究・検討を行っているところです。

実践活動の推進にあたっては、どうしても住民の労力等が必要となり、負担増が伴います。そこで、別途に新規のイベントを開催するのではなく、従来から開催していた地区盆踊り大会に合わせて、昔の地域写真の内容を充実させることで、マンネリ化していた活動に変化が加わりました。このよ

◆今後の課題と対応

うに既存の活動の活性化を図りながら住民の負担増を極力抑える工夫も行っていきます。

住民主体の地域活性化への取り組みが始まって4年目を迎えています。これまでの取り組みを持続させ発展させていく仕組みづくりが今後の最重要課題となっておりますので、この課題解決に取り組んでいきたいと考えています。

また、住民自らが既存の事業の見直し、旧態依然の体質改善を図りながら、地域資源を最大限に活用、必要に応じて新たな地域文化の創出をしながら地域の活性化に向けて進めて行きたいと思っております。



盆踊りにおける思い出の写真上映